

札幌大学

法学部自治行政学科開設記念「まちづくり懸賞論文」

『住めたらいいな・・・こんなまち!』

佳作

【論文テーマ】

愛される「まち」計画

【応募者】

神戸市立六甲アイランド高等学校

清水 美紀さん (2年)

平成十八年十月

題
 愛される「まち」計画

私達を取り巻く大きな環境——まち——。
 「まち」は私達につくられ、また一方で「ま
 ち」も私達をつくって行く。切っても切り離
 せない、私達人間と「まち」の関係。この関
 係をより良いものにするために、必要なもの
 は何なのか——。私なりに意見を述べてみよ
 うと思う。

まず第一に重要なのは、「まち」が衛生的
 でキレイであることだ。ほとんどの人は、や
 はり清潔な環境の方が気持ちが良いだろう。
 最初に、歩き煙草・ポイ捨ての禁止条例を制
 定する。厳しく取り締まるからには、ゴミ箱
 と灰皿も出来るだけ人々の目につくところへ
 設置する。また、クリーン作戦などを定期的
 に行うことで、まちに住む人々の環境衛生へ
 の意識を高めた。さらに、様々なアートや
 おしゃれな外観の建物をまちの風景にとり入
 れ、みんなが爽やかな気分になれるようなま
 ちにしたい。

第二の条件は、「まち」に暮らす全ての人

題
 愛される「まち」計画

 番
 五

が居心地の好い、住みやすい環境であることだ。まず、小さな子供達のために、大きな公園をつくってあげたい。自然の緑に溢れた、面白い遊具が沢山ある公園だ。少子化や子供の運動不足・ケム依存が問題となっている今日。まちの子供達がみんなが集まって、のびのびと思いきり体を動かせる広場として、楽しい空間にしたい。また、この超高齢社会の日本で、高齢者の方や身体障害者の方への配慮として、バリアフリーは絶対に必要だ。スロープ、点字ブロック、身障者用交差点など、全ての人々に優しい「まち」をつくりたい。

第三の条件は、「まち」の中での人々の関係をより親密にすることだ。昔の町のように、近所同士が助け合いながら……というようには、なかなかいかない現代の社会。人々がお互いを認め合い、信頼し合うことで、より豊かな「まち」が確立される。前文でも述べたクリーン作戦や、運動会・餅つき大会など、

題
 愛される「まち」計画

 年
 月

 番
 名

まちの人々がみんなに参加できる行事の開催、
 子供達が集まる公園や、お年寄りの憩いの広
 場など、人々が共有できるスペースの確保。
 これらが、まちに暮らす人々が関わり合う大
 きなキツカケをつくってくれる。そして、人
 々の共生社会への責任感と安心感をより大き
 くさせてくれるのだ。

以上の三点が、私の考える「住みやすいま
 ち」の絶対条件だ。まちの「清潔さ」と「快
 適さ」と、人々の「コミュニケーション」。
 この三つを実現させるためには、何よりもま
 ち、まちに住む私達が強い意志を持たなければ
 ならない。どんなに素晴らしいまちでも、
 人間の醜い心によって、荒んでしまうことも
 ある。また反対に、どんなに貧しいまちでも
 人間の美しい心によって、素敵なまちへ生ま
 れ変わることもある。

まちは、一人の力ではつくれるものではない。
 人々が集まって、自然と「まち」という
 社会が成り立っていくのだ。「まち」は、そ

題
愛される「まち」計画

番
名

ここに住む人々を写す鏡であり、「まち」は常
に変化し続けている。大切なことは唯一つ。
私達が「まち」を「愛すること」から全てが
始まる。

Handwriting practice grid with 30 vertical columns and 20 horizontal rows. The grid is currently empty.